

大宝・地域ケア ネットワークだより

第2号
平成28年
9月1日

「介護保険制度改定について」の講習会を開催して

本部長 大林 登

6月29日(水)

大宝地区公民館で、役場高齢障がい福祉課による「介護保険制度改定について」の講習会を開催しました。



大林登本部長

今回は「大宝・地域ケアネットワーク」の構成団体(12団体)の有志を対象とし、参加者は49名。

同制度は平成27年4月から保険料、福祉施設への入所基準等々10項目が平成28年にかけて見直されます。内容が多岐にわたっており、しかもいずれも大事な改正をふくんでいます。

講習会では主要な改正の説明とともに、地域支援事業として、「介護予防・日常生活支援総合事業の基本的な考え方」、「包括的支援事業」「生活支援コーディネーター」の配置などについてお話いただきました。

大宝地域においては、地域の困っている人へのいろいろな生活支援サービスを実行していただいており、また高齢者の方も積極的に社会参加されて、地域ケアの目的の一つ「介護予防」につとめておられます。

一方で高齢化の進行により、認知症の方、またその介護に携わりご苦労されている方もだんだん増えてくると思われます。

昨年「認知症サポーター養成講座」の「認知症、困った時はどうすればよいの」の講習会には沢山の方に受講いただきましたが、同時に実践面で認知症の方、介護の方が気



高年齢障がい福祉課阪井康子課長補佐

安くお話しでき、肩の荷が少しでも軽くなる機会や場所をつくっていきなす。

「高齢者ケアセンターつどうホール」 「大阪府中部広域防災拠点」の見学会に参加して(2月18日)

古川 雄二

1、つどうホール(藤井寺市)

「オリエンテーション」

- ・施設の概要と理念
- ・特別養護老人ホーム・グループホーム・ショートステイ・デイサービスの説明。
- ・介護保険サービスの利用料金についての説明。
- ・最近のテレビ・新聞報道などの取扱い方で、悪いイメージを持たれてはいるが、実際はそうではない。

- ・本施設での離職率は0%で、3K職場ではない。
- ・「施設見学」
- ・1F(デイサービスの利用者・個人の趣味や食事を楽しんでいた)
- ・2F・3F(特別養護老人ホーム…

- ・安くお話しでき、肩の荷が少しでも軽くなる機会や場所をつくっていきなす。



個人の部屋・風呂場等を見学) 4F(グループホーム、ショートステイ…個人の部屋・風呂場等を見学)

「つどうホール感想」

職員の方々には若い人が多く、挨拶・笑顔は好印象であった。特養、グループホーム、ショートステイ、デイサービス等の違いが分かり勉強になった。

2、大阪府中部広域防災拠点(八尾市)

「施設見学」

- ・荷捌き場…平時は、地元の体育館として利用。
- ・備蓄倉庫…非常食・備蓄水
- ・毛布・簡易トイレ・肌着・哺乳瓶・生理用品等を見学。
- ・会議室…関係機関が参集し、災害対策活動を協議する場所を見学。



「介護保険制度について」
の講習会に参加して
西川 文子

7月31日(日)

大宝地区公民館
において「介護
保険サービス」
や「介護施設」
についての講習会がありました。



八尾英人施設長

講師は、社会福祉法人カナンの
施設長・八尾英人氏でした。介護
保険制度の概要について、わかり
やすく丁寧に説明をしていただ
きました。

大宝地区も
高齢化が進み、
老々介護、つ
まり70代の子
どもが90代
の親の介護を、
80代の妻が90
代の夫の世話
をしていると
いう現実があ
ります。家族
間介護は「親
なのだから」
「夫婦なのだ
から」とお世



話をするのは仕方がない、他人の
力は要らないと頑張りすぎて共
倒れとなる切実な問題が起こっ
てきます。頑張りすぎない、一人
で抱え込まない。介護するほうも
されるほうも、介護保険サービ
スを利用しながら、心身の負担を
軽くする方法はあるのではと思
います。

河南町高齢障がい福祉課や民
生委員児童委員・福祉施設等に
声をかけてみましょう。

NHKスペシャル(7月3日)
「介護殺人」
当事者たちの告白から

① 「私もいつ殺人者になるか。
恐ろしい日々を送っています」
「父に死んでほしいと願って
います。こんな私はひどい人
間でしょうか」(介護中の女性)

② 日本人の平均寿命は男性^{80.50}才、
女性^{86.83}才(2014年)と世界一だ
が「介護の必要などがなく生
活できる期間」を表す健康寿
命は、男性^{71.19}才、女性^{74.21}才と
短くなる。日本人は亡くなる
までの10年前後を要介護状態
で過ごすことを意味している。

『日本では2週間に1度「介護殺人」が起きている』

③ 意外な事実が浮かび上がった。
この6年間に発生した介護殺
人事件138件を追跡すると、介
護を始めてから「1年以内」
というケースが25%に達した。

④ 介護経験がなく不慣れな人は、
どうしても最初の負担が大き
くなる。赤ちゃんの育児は「で
きること」が増えて楽しいが、
介護は「できないこと」が増
えて気が滅入る。さらに介護
初期は「一生懸命リハビリす
ればきつと回復する」と思い
込みがちで、状態が戻らない
と絶望感が強くなる。

⑤ 多くは介護中の女性からのSOS
である。日本の社会は「家の
ことは女性がやるべき」とい
う考えがまだあって、それが
介護に集約されている。

⑥ Aさんは定年後、夫婦水入ら
ずの老後を楽しんでいた。2
年前妻が骨粗鬆症で歩行困難
になると平穏な生活が一変し
た。Aさんは知識もありません。
「妻は治る」と信じて必死に
不慣れた家事と介護をこなし
た。懸命なりハビリで妻は一
時的に歩けるまで回復したが、
すぐ後に腰を骨折して寝たき

『介護の経験がある人にアンケートを実施したところ「相手を手にかけたい」「一緒に死にたい」と考えたことがある人は、実に4人に1人にのぼった』

りになった。自力で排泄でき
なくなつた妻の落ち込みは激
しく、「自分は元に戻れない。
何もできない」とひたすらに
涙を流す姿を見て、Aさんの
心がポキリと折れた。介護を
始めて10か月、泣きながら「死
にたい、殺して」と懇願する
妻を何度もなだめたが、つい
に心身の疲労が限界を超え、
42年間連れ添った妻に手をか
けた。後を追おうと手首や首
を切つたが死にきれず、警察
に自首して執行猶予付きの有
罪判決を受けた。
(介護に関する様々な問題が
提起されています)

編集後記

今回の紙面は介護保険制度に
焦点をあててみました。
統計では、亡くなるまでの約10
年間が要介護状態だといわれて
おり、健康寿命を伸ばそうとい
う試みが全国で始まっています。更
に、要介護状態になった時の備え
も必要となってきました。
この紙面が、これから終末期ま
での生活プランを見つめ直す一
助になればと願っています。